

常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和5年5月10日（水）～11日（木）

2 視察項目（視察都市）

- ・柳川総合保健福祉センター「水の郷」について（柳川市）
- ・障害者福祉について（鳥栖市）

3 参加委員

委員長：岩本 守、副委員長：松本 泰典

委員：永田 真樹、朝田 充、辰見 直子、岡本 亓郎

4 調査概要

柳川市では、高齢化の進行に際し、住み慣れた地域で家族とともに健康で豊かに暮らすための施策として、生涯学習をベースとした健康づくり、福祉活動などの市民の自主的な活動を支援し、世代をこえた交流の拠点として「柳川総合保健福祉センター水の郷」が整備された。温泉資源を利用した温浴施設、図書館、調理実習室、貸会議室、ホール、キッズルーム、トレーニングルームと種々の設備があり、保健福祉、生涯学習、住民の交流・情報発信、子育て支援、健康づくりの中核拠点として一体的な施設となっていることが同センターの大きな特徴である。

鳥栖市では、住民の多様化が進む中、一人ひとりが住み慣れた地域で自分らしく生きることが出来る社会の構築を目指し、「障害者理解促進事業」として、地域ぐるみで障害者とその家族を支援しながら社会参加を促す事業を行っている。同事業の一環として、障害者とその家族の居場所づくり事業である「ほっとスペース」が、また、障害がある児童の福祉を目的として、発達支援、放課後等デイサービスを行う障害児通園施設「ひかり園」が公立として設置されている。



鳥栖市にて

5 委員長所感

柳川市総合保健福祉センターは、公的事業を行う「公益事業部門」と施設の収益活動を行う「収益事業部門」を設定している。保健・福祉の拠点施設として、子どもから高齢者まで、世代を超えた交流施設として整備された。本市においても、目的とニーズを的確にとらえて事業に取り組まなければならないと実感した。

鳥栖市の障害者理解促進事業ほっとスペース事業は、障害のある当事者が運営するNPO法人に運営を委託しており、障害者の理解あるいは社会参加促進の観点から非常に意義深い取組である。他にも、積極的に外に出て行くスタンスでの福祉事業やイベント等、多くの方に理解と共感をもっていただくために有効的な取り組みは大変参考になり、本市においても、良い所を取り入れ、障害者施策の推進の一助にしていかなければという思いに至った。